

case
19

LPガス容器検査

有限会社
笠原商事

簡易診断+伴走型支援+人材育成でステップアップ! 社員全員によるデータ活用で、顧客対応力・売上UP

これで解決!



Point.1 会計のクラウド化で資金の流れを見える化! 迅速に対策!

Point.2 配送・受入・検査の状況をデータでリアルタイムに共有!

Point.3 社内人材育成&ノーコードツール活用でDXを推進!

課題
はココ!



1 手書きで振替伝票を作成し、毎月1回、税理士に郵送。税理士は会計システムに手入力し、月次資料を作成の上、訪問。双方に作業の負担が発生するとともに、資金の流れをリアルタイムに確認・把握できない。

2 配送の予定は事務所のカレンダーに手書きされ、それを現場のホワイトボードに転記し、共有している。転記ミスに加え、急な変更に対応できない。また、受入から出荷まで手書きの帳票で管理しているため、リアルタイムに状況がわからない。

3 部分的にシステム導入されているが、全体的に手書き・手入力が多く、最適化されていない。また、明確なIT担当者がいない中で、どのようにデジタル化を進めていけばよいのかわからない。



▲事業開始から約30年、全ての人に安心してLPガスを使用してもらうために行っている容器の再検査事業

解決の
ポイント
はココ!



1 関係者での合意、トライアルの上、クラウド型会計システムを選定。手書きからシステム入力へと業務を変革したことで、負荷の低減とともに、タイムラグがなく、資金の流れを見える化・共有でき、対策を講じられるようになった。

2 kintoneにより配車運行管理アプリを構築。事務所で更新した最新の予定を現場、ドライバーと共有。また、受入（進捗）管理アプリも構築し、現場で実績をタブレットから入力。進捗、検査漏れ、不合格をリアルタイムに把握。

3 IT経営簡易診断を受け、あるべき姿、優先順位等を明確化。実現に向け、専門家が伴走型で支援。中では、業務に精通したリーダーが推進役となる一方、全員がデータ化・活用できるよう人材を育成。



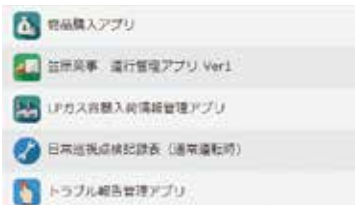
▲社員全員がノーコードツール「kintone」でデータ入力と活用ができるよう社内研修を実施

IoT活用の成果

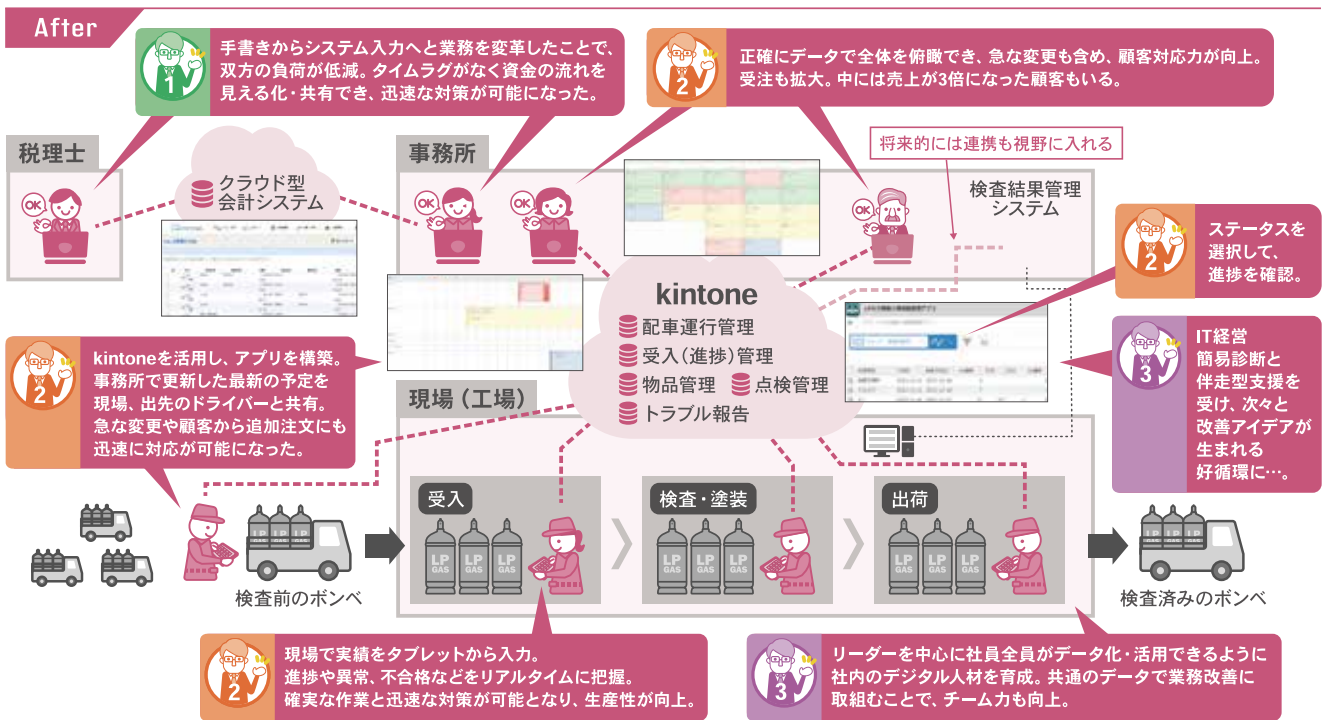
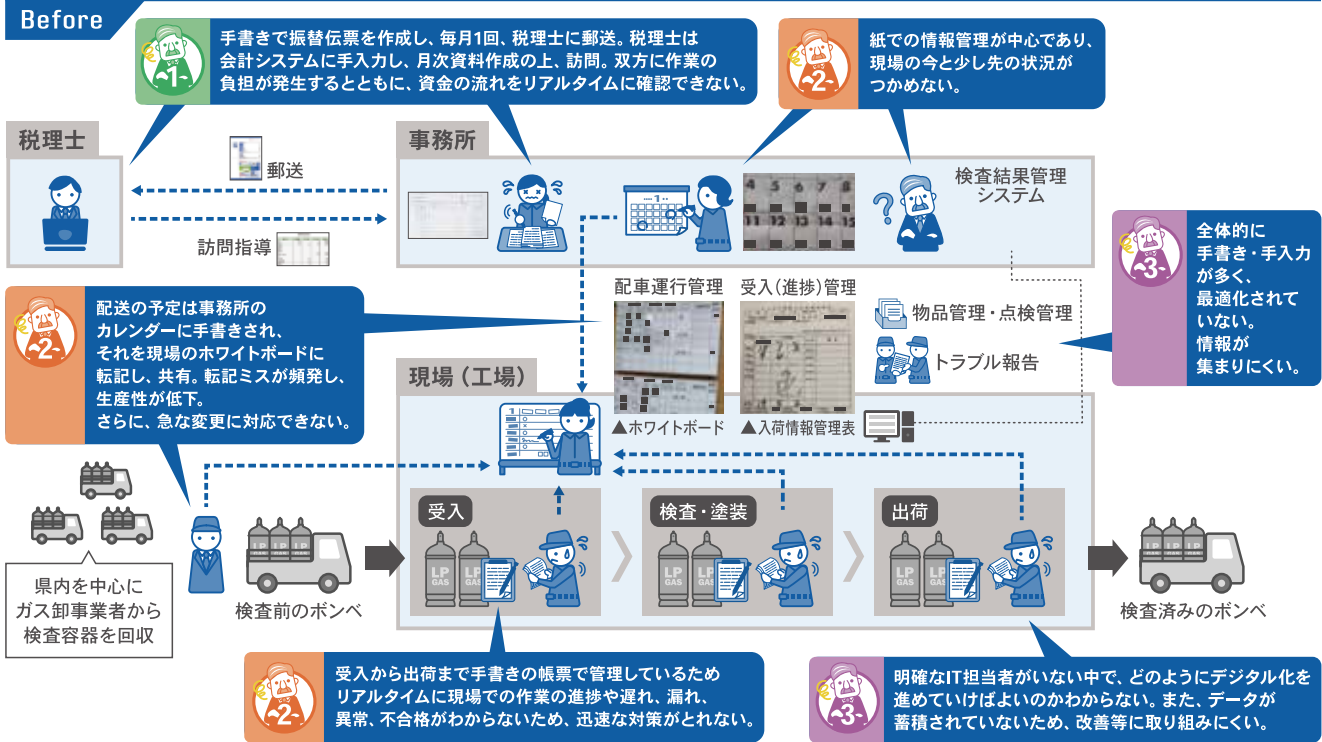
リアルタイムに配送予定、受入・検査の状況を共有することでミスがなくなり、生産性が向上。また、急な変更も含め、顧客対応力が向上。顧客の中には、売上が3倍になったところもある。

リーダーを中心に社員全員がデータ化・活用できるとともに、同じデータで業務に取り組むという意識からチーム力が向上。次々とデジタル化のアイデアが生まれる好循環に!

こんな成果が!



▲紙と口頭で共有していた情報を次々とアプリ化し、より集まるようになった



今後の展開

電子帳簿保存法への対応、勤怠管理などバックオフィスの強化に取り組む。さらに、RFIDを積極的に活用し、LPガス容器の入出荷等の効率化はもちろん、災害時に流出した際のドローンによる探索、管理コードの共通化など業界全体のDX、社会課題解決に取り組む。

有限会社 笠原商事

【本社】〒502-0074 岐阜県岐阜市長良西山前 96 【関事業所】〒501-3264 岐阜県関市池尻 1904-1
TEL. 0575-22-9314 HP/kasahara-shouji.co.jp 創業/1971年 資本金/1,000万円 従業員数/15名

創業以来、畜産業向けのサイロの設置・メンテナンスを生業としてきたが、LPガスの普及に伴い、サイロメーカーが製造するLPガス容器の小口配送も行うようになり、その後、全ての人に安心してLPガスを使用してもらうため、容器の再検査事業を開始。およそ30年間、容器に関する知識と経験を蓄積しながら、顧客からの信頼を獲得。工場では積極的に自動化、工程のシステムライン化を図り、安全で確実な作業環境も実現している。

当事例で活用された制度

オーダーメイド実践研修

岐阜県内企業や団体からのご要望により、ソフトピアジャパンで実施する研修。

掲載内容の取組期間

令和4年2月～令和5年3月